

芸工
インターナショナル
オフィス

令和 7 年度活動報告

2026 年 5 月



Faculty of Design
Graduate School of Design, School of Design
Kyushu University



International Office
Faculty of Design

目次

組織図

芸工インターナショナルオフィス 概要

はじめに

1 国際プログラム・海外留学

1.1 国際プログラム

1.2 交換留学実績

1.3 海外留学フェア

2 国際教育イニシアティブ

2.1 工学部連携 シリコンバレー流仮想起業プログラム: ELEP, Zero to One

3 留学生サポート

3.1 芸工サポーター運営

3.2 同窓留学生のネットワーク構築

4 国際化への取り組み: 大学改革活性化制度「デザインと日本」英語による科目シリーズ開講

4.1 日本デザインの創造、国際発信できる人材を育成する教育プログラムの概要

4.2 デザインと日本 A/日本デザインの理解 A (2025 年度前期)

4.3 デザインと日本 C (2025 年秋学期)

4.4 デザインと日本 C/日本デザインの理解 C-2 (2025 年秋学期)

4.5 デザインと日本 B/日本デザインの理解 B (2025 年冬学期)

4.6 レクチャー・シリーズとイベント

5 海外パートナーの開拓

5.1 海外大学関係者の表敬訪問対応

5.2 部局間国際交流協定新規締結、更新のサポート

6 国際広報活動の充実

6.1 国際広報

6.2 留学生リクルート

6.3 芸工ウィンタースクール 2025

7 国際化に関連する様々な活動

7.1 芸工 Global Hub

7.2 相談オフィスサポート

7.3 その他

はじめに

2025年度は、当オフィスにとって成長と基盤強化の年となった。基盤強化の面では、昨年度実施した組織改革により、学内の国際戦略に沿って部局の国際推進室と連携し、より調整の取れた形で活動することができた。これにより、国際化支援活動の効果的な推進を実現することが可能となった。

活動の発展として、日本人学生・留学生の両方を対象とした支援体制の強化を継続した。本年度は、全芸工生を対象とした相談オフィスサポートを新たに導入し、特に海外留学に関心のある日本人学生や学業・生活面での支援を必要とする留学生のニーズに対応した。また、学内の国際的な雰囲気づくりを目的として、週次・月次イベントシリーズ「Geiko Global Hub」を新たに立ち上げ、学生が気軽に交流・学習できる場を創出した。これらの取り組みは、文化交流や語学学習を促進し、日本人学生・留学生双方にとって価値のある活動となった。

国際ネットワーク強化の面では、本年開催した Geiko International Reunion 2025 において、オンラインプラットフォーム「SpatialChat」を活用したパネルディスカッションを実施した。これにより、卒業生と教職員が交流を深め、国内外の卒業生とのネットワークの強化を図ることができた。また、多数の協定校からの訪問者を受け入れ、継続的な共同研究および教育交流を推進するための強固な基盤を築いている。さらに、こうした多様な国際連携は、九州大学の国際的な存在感の向上にも寄与している。

特に国際プログラム（IP）は2025年度に大きく発展した。本プログラムは、海外留学を希望する国内学生を支援することを目的とした取り組みであり、2025年度は、英語によるデザイン系の単位認定科目の提供、短期留学機会の拡充、語学試験補助制度、その他ニーズに応じた個別支援など、多岐にわたる活動を実施した。また、プログラムの持続性および学生支援の質を高めるため、担当教員を増員した。福岡アジア都市研究所との連携を開始し、IP科目の企画・運営を共同で行うとともに、福岡市役所での学生ポスター展示を実施した。さらに、戦略的デザイン専攻が主導する国際共同ワークショップと連携し、IP学生を台湾での単位認定型短期留学プログラムへ派遣した。これらの取り組みは、学生が現実の設計課題と向き合い、実践的な国際的・異文化学習を深めることを目的としている。

今後は、2025年度に開始したプログラムを中心に、現行の取組の効果性と一貫性をさらに高めることで、活動の整理と強化を図る予定である。そのため、既存プログラムの運用基盤を整備するとともに、関係者と連携して継続的なニーズ調査および評価を進めることとしている。これらの取り組みはすべて、海外からの受入学生および本学からの派遣学生に対する支援の強化、ならびに国際共同研究・教育・デザイン／デザイン工学実践に携わる教員への支援を充実させるという明確な方針のもとに実施するものである。

最後に、当オフィスの国際化推進に向けて積極的にご協力いただいた多くの教職員、学生、地域の皆さまに深く感謝申し上げますとともに、引き続きのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

1 国際プログラム・海外留学

1.1 国際プログラム

2021 年度から開始した芸術工学部 2 年生対象の留学を促進する教育プログラム

目的

国際社会において主体的に活動するために必要な姿勢、態度、コミュニケーション能力を身につけ、かつ専門的なデザインの知識・能力と自国についてのアイデンティティをもった人材を育成することを目的とする。

プログラム修了の要件

国際プログラム登録後、次の 3 つの条件を満たす学生に対してプログラム修了証を交付する。

1. 次の 4 科目の単位を修得していること：
 - Intellectual Property Rights: Global Perspective (学部 2 年夏学期)
 - Global Design Innovation (学部 2 年夏学期)
 - Design Pitching Skills (学部 2 年秋学期)
 - Start-ups and Global Disruptors (学部 2 年冬学期)
2. 留学 (短期留学を含む) により、語学以外の科目で 4 単位以上を取得していること
3. 学部の卒業要件を満たしていること

担当教員

助教 Loh Wei Leong

助教 稲村 徳州

助教 BLANCO CORTES LAURA MARIA

助教 YAO Yaya

参加人数

5 名

履修生留学のための取組み

- 外国語試験検定料 (TOEFL、IELTS 等) 一部助成 4 名
- 福岡アジア都市研究所との連携により、国際プログラム学生が制作したカーボンニュートラル生活をテーマとしたポスターを、2025 年 12 月 17～19 日に福岡市役所に展示
- 田村教授、牛尼教授、稲村助教との連携により、2026 年 3 月 9～11 日に台湾・国立成功大学 (NCKU) で実施された合同ワークショップに国際プログラム履修者 5 名参加
- NCKU での合同ワークショップの宿泊費 一部助成 5 名
- Geiko Global Hub と協働し、英語コミュニケーション能力向上
- TOEFL、IELTS 等外国語試験対策テキストの貸与

福岡市役所ポスター展示（福岡アジア都市研究所との協働）

2025年12月17日から19日にかけて、福岡市役所1階の多目的スペースにおいて、「Design Pitching Skills」履修学生による「Student-Designed Solutions for a Carbon-Free Lifestyle」と題したポスター展示を実施した。本展示は、福岡アジア都市研究所（URC）による継続研究プロジェクト「ゼロカーボンシティ福岡へ向けた行動変容」の一環として実施されたものである。

国際プログラムに所属する学生は、水の節約、地産地消、エシカル消費といったテーマに着目し、若年層におけるカーボンフリー行動の促進を目的として英語によるポスター提案を作成した。展示では、これらの内容を日本語版と英語版の両方で掲示した。



▲ポスター展示

台湾・国立成功大学（NCKU）との合同ワークショップ

田村教授、牛尼教授、稲村助教との連携により、2026年3月9日～11日に台湾・国立成功大学（NCKU）で実施された合同ワークショップに国際プログラム履修者が参加した。本短期デザインワークショップを通じて、国際プログラムの学生に海外教育の短期体験を提供した。国際プログラム学生は、文化・価値観・生活様式の共通点および相違点を理解しつつ、フィールド調査手法やサービスデザインアプローチを学んだ。また、九州大学と国立成功大学の合同チームでの協働を通じ、遠隔協働およびプロジェクトマネジメント能力を向上した。

第1日目：ワークショップの紹介、講義、グループワーク

第2日目：講義、グループワーク

第3日目：成果発表会、キャンパスツアー



▲台湾での合同ワークショップ

国際プログラムの広報

- ・説明会: 学部1年生向け (2025年4月4日)、学部2年生向け (2024年4月15日)
- ・留学を終了した国際プログラムの参加学生2名が、学部1年生が履修する「Design Case Studies I」の授業で自分たちの経験を共有した。
- ・国際プログラムの名称変更を検討および名称変更に伴うロゴ、パンフレット制作



Design Innovation
International
Program



▲国際プログラムのパンフレット

助成資金

- ・外国語試験検定料一部助成: 教育のグローバル化推進経費
- ・国立成功大学との共同ワークショップ: 教育のグローバル化推進経費 (引率教員)
- ・海外での留学生活費等: JASSO 海外留学支援制度「世界的デザイン系人材を育成する芸術工学部国際プログラム (派遣)」



▲国際プログラム3期生

実績

年度	履修者数	留学者数	留学先と奨学金	修了者数
第1期生 2021年度	10	4	南洋理工大学 1名 ミラノ工科大学 1名 ケルン応用科学大学 2名	3
第2期生 2022年度	10	5	アムステルダム応用科学大学 1名 国立成功大学 1名 カールスルーエ造形大学 1名 サンノゼ州立大学 1名 ウィーン大学 1名	4
第3期生 2023年度	9	9	アムステルダム応用科学大学 2名 ケルン応用科学大学 2名 HAN 応用科学大学 1名 アナドル大学 1名 ミラノ工科大学 1名 アンハルト応用科学大学 1名 ダルムシュタット科学技術大学 1名	6
第4期生 2024年度	10	10	ミラノ工科大学 1名 アムステルダム応用科学大学 2名 ケルン応用科学大学 2名 ダルムシュタット科学技術大学 2名 ミュンヘン工科大学 1名 パーミンガム大学 1名 カセサート大学 1名	-
第5生 2025年度	5	準備中	-	-

1.2 交換留学実績

大学名	人数・所属
ダルムシュタット応用科学大学 (ドイツ)	3名 インダストリアルデザイン B4 インダストリアルデザイン B3 環境設計 B4
ケルン応用科学大学 (ドイツ)	3名 インダストリアルデザイン B4 メディアデザイン B3 未来構想デザイン B3
アムステルダム応用科学大学 (オランダ) DSS,CMD	2名 未来構想デザイン B3 未来構想デザイン B3
ミラノ工科大学 (イタリア)	2名 環境設計 M2 環境設計 B3
HAN 応用科学大学 (オランダ)	1名 メディアデザイン B4
南洋理工大学 (シンガポール)	1名 インダストリアルデザイン B4
北京理工大学 (中国)	1名 インダストリアルデザイン B4
ラフバラー大学 (イギリス)	1名 環境設計 M2
カセサート大学 (タイ)	1名 未来構想デザイン B3
HKU コトレヒト芸術大学 (オランダ)	1名 メディアデザイン M2
エストニア芸術アカデミー (エストニア)	1名 ストラテジックデザイン M1
ミュンヘン工科大学 (ドイツ)	1名 音響設計 B3
オーストラリア国立大学 (オーストリア)	1名 環境設計 M2
バーミンガム大学 (イギリス)	1名 未来構想デザイン B3
国立成功大学 (台湾)	1名 メディアデザイン M2
合計	21名

1.3 海外留学フェア

概要

2025年10月、九州大学国際部留学課海外留学係主催の「留学フェア」に、伊都キャンパスにて参加した。本フェアは対面式イベントとして実施され、芸術工学部として計2回のセッションに参加した。

期間 2025年10月7日、10月10日

参加人数 16名



▲イベントの様子

2 国際教育イニシアティブ

2.1 工学部連携 シリコンバレー流仮想起業プログラム: ELEP, Zero to One

目的

ELEPは学生の英語能力、イノベーション/グローバル能力を高め、さらに高度な社会において活躍できる新たな力を身につけることを目的としたプログラムである。

概要

このプログラムは芸術工学研究院と工学研究院が共同で実施するもので、芸術工学部・学府および工学部・学府の学生を対象に開講した。4週間のアントレプレナーシッププログラムの内容は以下の通りである。

- ・米国カリフォルニア州のサンノゼ州立大学による英語研修
- ・同大学学生との対面による個人的な交流
- ・シリコンバレーの有名企業や大学へのフィールドトリップ
- ・シリコンバレー現地で活躍されている起業家やベンチャーキャピタルによる講演
- ・Zero to Oneプログラムにてデザイン思考法によるワークショップ形式ビジネス創出経験

学生は今年のZero to Oneのテーマであるグローバルマーケットを意識し、最新テクノロジーと掛け合わせて日本の良さを世界に売り込むアイデアをデザインした。

期間

2026年2月23日～3月19日

担当教員

九州大学大学院芸術工学研究院 准教授 張 彦芳

九州大学大学院工学研究院 教授 寺西 亮

九州大学国際教育ナビゲーションセンター 准教授 下村 萌

九州大学シリコンバレー 客員教授 松坂 秀二郎

履修者

15名（芸術工学府生：1名）



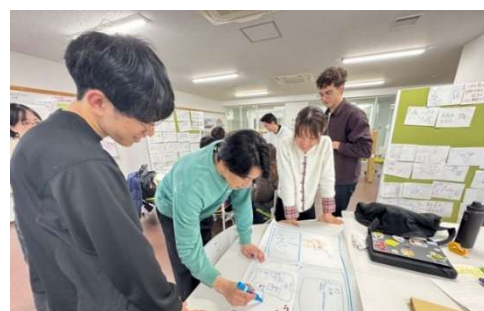
▲ELEP 講義の様子



▲アメリカでの ELEP 開催の様子



▲アメリカ現地大学生との交流の様子



▲ZTO ワークショップの様子

3 留学生サポート

3.1 芸工サポーター運営

概要

芸工サポーターは、芸工インターナショナルオフィスのもとで活動する学生主体のチームである。留学生支援や異文化交流を通じて、多様な文化的背景を持つ学生が共に学び成長できるキャンパスづくりを目指し、2021年度に設立された。

設立5年目となる2025年度後期には、芸工サポーター主催のウェルカムイベントを充実させ、交流会やキャンパスツアーを通じて約50名の新入留学生を歓迎した。また、渡日直後のサポート体制をより強化するため、ゆうちょ銀行福岡パートナーセンターの協力を得て「ゆうちょ銀行口座開設会」を実施した。アプリを活用した簡便な開設方法は留学生から高い評価を得た。

芸工サポーター人数

44名（日本人学生33名、留学生11名）

新留学生数

前期：42名（うち、海外からの来日留学生29名）

後期：57名（うち、海外からの来日留学生53名）

主な活動内容

- 留学生の来日直後の役所手続きおよび銀行口座開設手続きのサポート

前期：サポートを受けた留学生29名 / 芸工サポーター11名

後期：サポートを受けた留学生26名 / 芸工サポーター11名

- ゆうちょ銀行口座開設会サポート

後期のみ：留学生48名 / 芸工サポーター4名、ゆうちょ銀行職員：5名、

芸工インターナショナルオフィス職員：2名

- 新入留学生向け交流会、キャンパスツアー、ウェルカムパーティーの企画・運営

前期：（キャンパスツアー） 42名（留学生34名、芸工サポーター9名）

（ウェルカムパーティー） 57名（留学生24名、芸工サポーター他在学生33名）

後期：（交流会・キャンパスツアー） 64名（留学生52名、芸工サポーター12名）

（ウェルカムパーティー） 68名（留学生44名、芸工サポーター他在学生24名）

- 芸工ヘルプデスク（新入留学生の学内手続きに関する質問に答え、サポートした）

前期： 7名（履修登録関連、Campusmateの使い方、年金免除申請など）

後期： 8名（履修登録関連、ANPIC登録、大学メールのログイン方法など）



▲芸工サポーターミーティング



▲新入留学生オリエンテーション



▲キャンパスツアー



▲ウェルカムパーティー

3.2 同窓留学生のネットワーク構築

目的

九州大学芸術工学部・大学院芸術工学府および九州芸術工科大学を卒業後、世界各地で活躍する同窓留学生のネットワークを構築し、卒業生と「芸工」との間の継続的な交流と相互支援の基盤を確立するとともに、現役留学生に対してグローバルなキャリア形成の可能性を提示する。

取組み

- 同窓留学生ネットワーク「Geiko Global Alumni Network」への加入促進、情報更新依頼
- 同窓留学生へ季節の挨拶や年間報告書等を添えた定期的な電子メールの送付
- 年間行事として Geiko International Reunion の運営

Geiko Global Alumni Network

九州大学芸術工学部・大学院芸術工学府および九州芸術工科大学を卒業した同窓留学生および在学生 108 名（2025 年 12 月 15 日現在）が Geiko Global Alumni Network に登録した。

- 卒業生の現在の居住地（%）：日本（55%）、インドネシア（11%）、中国・無回答（各 9%）、バングラデシュ・フィリピン・韓国（各 2%）、ブラジル・エジプト・フィンランド・イタリア・クウェート・マレーシア・スウェーデン・台湾・アラブ首長国連邦・英国・アメリカ合衆国（各 1%）

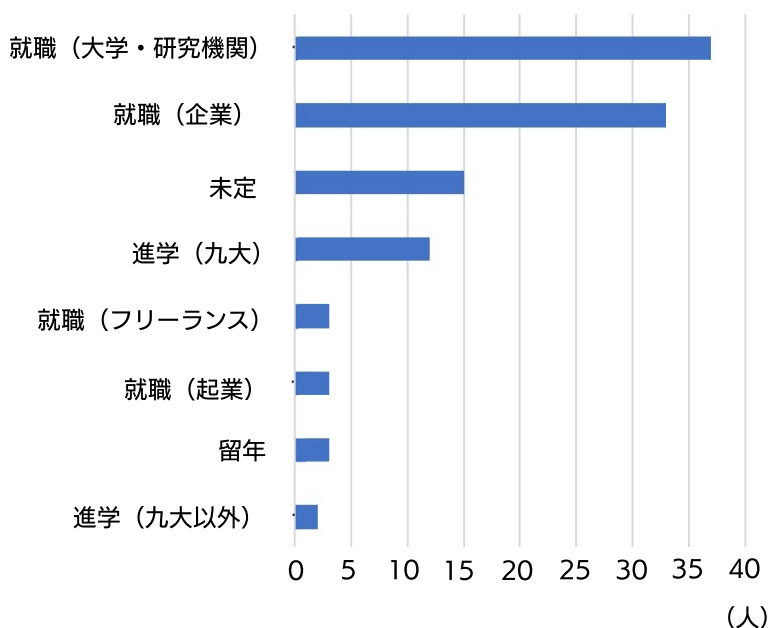


図 1. 卒業生・在学生の進路

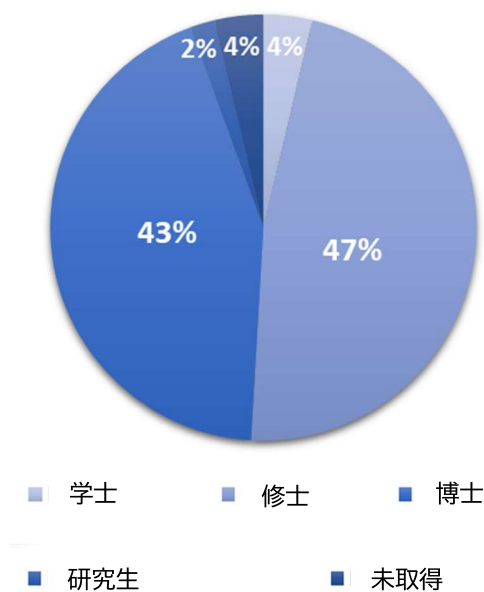


図 2. 卒業生・在学生の学位別人数の割合

Geiko International Reunion 2025

目的

- 世界各地で活躍する同窓留学生とのネットワーク強化と交流促進
- 多様なキャリアパスや専門分野に関する知見の共有
- 同窓生コミュニティを通じた持続的な協働・共創の基盤づくり
- 芸工の研究・教育動向の発信

日時 2025年12月16日(火) 17時～19時(日本時間)

会場 【オンライン】SpatialChat

使用言語 第1部(基調講演):英語、第2部(交流会):自由

参加対象 同窓生(日本人を含む)、九州大学芸術工学部・大学院芸術工学府在學生、九州大学教職員

内容

- 開会あいさつ(芸工インターナショナルオフィス室長 Gerard B. Remijn 教授)
- 芸工の近況報告(芸工インターナショナルオフィス副室長 Yaya Yao 助教)
- 基調講演:同窓留学生の多様なキャリアデザインについて
 1. 海外大学博士研究員(Natalia POSTNOVA 博士、フィンランド在住、2021年卒)
 2. 九大芸工教員・研究者(Laura BLANCO 助教、日本在住、2021年卒)
 3. 日本企業エンジニア(Alexis VALLET さん、日本在住、2017年卒)
 4. 起業家(Rahmawati HIDAYAH 博士、インドネシア在住、2012年卒)
- 集合写真
- 交流会(オンライン)
- 閉会あいさつ(芸工インターナショナルオフィス室長 Gerard B. Remijn 教授)

開催結果

- 参加者合計24名(同窓生16名(うち、九大教員5名)、芸工教職員3名、芸工学生5名)
- 在住国は日本、インドネシア、フィンランド、クウェートの4か国。
- 1976年・1989年に九州芸術工科大学を卒業した大先輩から、2025年に卒業したばかりの方、在學生までが参加し、約半世紀にわたり芸工生が集結した。
- 第1部の基調講演(キャリアセッション)では、留學生が芸術工学府卒業後にどのようなキャリアを築いているか、その過程と示唆が共有され、有意義な時間となった。
- 第2部のネットワーキングセッションでは、リラックスした雰囲気の中で会話が弾み、交流が深まった。

当日の様子

Quick Guide to SpatialChat

- 1. Move Around:** Drag your icon with mouse to move.
- 2. Start Talking:** The closer you are, the clearer their voice becomes.
- 3. Camera and Microphone:** Manage them using the icons at the center of the screen.
- 4. Change Rooms:** Click the "Show Rooms" button (at the right top) to switch between rooms.

Today's schedule

- 16:45- Icebreaker
- 17:00- Opening Remarks
- 17:05- Updates from Geiko and Winter School Stage
- 17:20- Career Design Sessions by International Alumni
- 18:00- Group Photo Session
- 18:10- Networking Session
- 18:55- Closing Remarks

Which do you prefer: Working from home or working at the office/studio?

Office/Studio: 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10
Remote: 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10

Geiko International

WINTER SCHOOL
ENVISIONING THE FUTURE OF GEIKO

3. Winter School 2025

A one-week program for potential international students designed as a taste of what our graduate school has to offer.



How to Create an Attractive Portfolio

Exploring Career Advancement Opportunities in Japan and Abroad

Sharing Job Hunting Experience

Other Topics

Establishing Academic collaboration

QR Code

4 国際化への取り組み：大学改革活性化制度 「デザインと日本」英語による科目シリーズ開講

4.1 日本デザインの創造、国際発信できる人材を育成する教育プログラムの概要

令和4年度大学改革活性化制度「日本デザインを創造し、国際発信できる人材育成のための教育プログラムの構築」の改革計画は、実施体制とノウハウを含め、2020年度から開講した「デザインと日本」の展開拡充の延長線上にある。2022年度から2023年度にかけて大学院改組のカリキュラムに組み込まれている実践的な授業「デザインと日本 A、B、C」の3科目を開講した。

日本デザイン教育プログラムの実施により、日本人学生及び留学生が、日本の伝統から現代までの美意識に関する理解を深め、そこで得た知識や姿勢をもとに、将来的に革新的なデザインやアートを創造し、さらにその普及と発展を担うキュレーションや国際情報発信ができるポテンシャルを育成する。

4.2 「デザインと日本 A/日本デザインの理解 A」（2025年度前期）

授業概要

大学改革活性化制度の事業計画に基づき、2020年度から芸術工学部・芸術工学府において「デザインと日本」と題して日本デザインに取り組む授業を開講している。この授業は芸工インターナショナルオフィスが企画・運営するもので、芸術工学府の幅広いデザイン分野を英語で学べるオムニバス形式の講義シリーズである。今年度は写真、日本の伝統音楽、折り紙工学、VR、近現代建築など、さまざまな専門分野の教員が、それぞれの立場から日本のデザインを紹介する講義が行われた。また、今年度は九州大学総合研究博物館へのエクスカージョンを実施した。最後に参加者は講義から興味のあるテーマを選択し、独自の問いを立て考察するレポートを提出した。

期間	前期
担当教員	准教授 結城 円
使用言語	英語
履修者	55名(うち留学生 36名)



▲授業風景

講義内容

文化的翻訳と日本らしさ

日本のノイズミュージックとサウンドアート

視覚文化的翻訳ワークショップ

教授 Bettina Blümner (ダルムシュタット応用科学大学)

教授 Thomas Lauterbach (ダルムシュタット応用科学大学)

日本伝統文学

折り紙工学に基づくエンジニアリングデザイン

理論と事例研究：翻訳とアート基盤研究の役割

九州大学総合研究博物館コレクションと文化翻訳

准教授 結城 円

准教授 城 一裕

助教 曾村 みずき

准教授 斉藤 一哉

教授 SARANTOU Melanie

教授 Karina Nimmerfall (ケルン大学)

教授 三島 美佐子 (九州大学総合研究博物館)

マンガ・イラスト・VR・AI による微生物世界の可視化

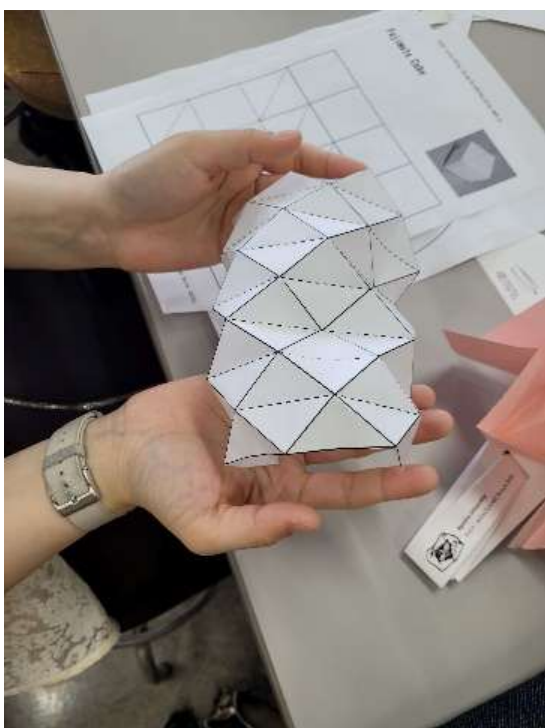
日本の近現代住宅デザイン

日本の現代アートにおける移動と国際交流

准教授 井上 大輔

准教授 岩元 真明

助教 BEYN Ariane



4.3 「デザインと日本 C」 (2025 年度秋学期)

授業概要

今日のキュレーションは、展覧会やその他の文化的コミュニケーションの組織やプレゼンテーションにとどまらない。学際的・文化横断的な文脈の中で、異なる知のあり方をまとめ、アートと社会の関係を考え、アート機関、美術館、コレクションが築かれてきた前提に挑戦することでもある。

この科目は、「アーカイブから展覧会を構築する」ことを目的とした実践的演習である。具体的には、福岡アジア美術館 (FAAM) が1999年の開館以来実施してきたアーティスト・イン・レジデンス・プログラムの歴史、活動、そしてその影響を反映した展覧会を企画することを目標とした。このため、FAAM アーカイブを用いたキュレーション調査、展覧会コンセプトの立案、そしてFAAMと協働しながらレジデンス参加アーティストへのインタビュー実施および映像記録を行った。

期間 秋学期

担当教員 准教授 結城 円
講師 BEYN Ariane

使用言語 英語

履修者 11名(留学生11名)

講義内容

キュレーション調査 エクスカージョン	福岡アジア美術館「Fukuoka Asian Art Museum Residence Programs」 福岡アジア美術館 「ベトナム、記憶の風景」「福岡アジア美術館 ベストコレクションⅢ」
エクスカージョン セッション	福岡市美術館「珠玉の近代絵画―「南国」を描く」、Artist Café Fukuoka プロジェクト概念化および企画立案
最終発表	福岡アジア美術館



▲授業風景

4.4 「デザインと日本 C/日本デザインの理解 C-2」(2025 年度秋学期)

授業概要

この科目は、芸術展覧会の歴史および近年のキュレーション史の概観を踏まえ、現代のグローバルな文脈におけるアートおよびキュレーションに関わる主要概念を体系的に導入することを目的とするものである。

今日のキュレーションは、展覧会やその他の文化的コミュニケーションの組織化・提示にとどまらない。学際的かつ越境的な文脈においては、異なる知のあり方を結びつけ、芸術と社会の関係性に主体的に関わり、美術館・博物館・コレクションなどの制度が前提としてきた思考や価値観を問い直す営みへと広がっている。

各授業回では、選定された理論的テキスト（英語）を取り上げ、関連する図版資料を用いて背景づけを行い、そのうえで参加者との議論を通して内容を深める構成とした。本授業は英語で実施され、グループワーク、発表、ディスカッションを含む参加型の形式で行われた。

期間 秋学期

担当教員 准教授 結城 円
講師 BEYN Ariane

使用言語 英語

履修者 13名(留学生13名)

講義内容

展覧会の概念
ホワイトキューブのコンセプト
サイトスペシフィック・アート
グローバルな文脈における展覧会史
アーカイブ実践
キュラトリアリティ
最終ディスカッション

4.5 「デザインと日本 B/日本デザインの理解 B」 (2025 年度冬学期)

授業概要

この科目は、実践型プロジェクトとして展開された展覧会キュレーション演習の後半に位置づけられる科目であり（前半：Design in Japan C〈秋学期〉）、福岡アジア美術館（FAAM）のアーカイブを基点として構築する展覧会制作の取り組みをさらに発展させることを目的とした。

秋学期におけるアーカイブ調査および展示コンセプト立案の成果を引き継ぎつつ、本授業では地域の美術館へのエクスカージョンや、国際的に評価を受けるキュレーターによるゲストレクチャーを通じて、展覧会デザインや展示空間における思考と実践を強化した。

本科目が重視する点は、展覧会制作のプロセスを多角的に理解し、地域文化の歴史的背景と国際的なネットワークとの関連性を深く把握することである。学生たちはキュレーターとの対話を通じて、専門家が抱く理念や実務的視点に触れ、展覧会コンセプトの形成、展示デザインの構造、さらには特定の空間性に根ざしたアートプロジェクトの意義について学んだ。これらの学びを踏まえ、秋学期におけるDesign in Japan Cで策定されたコンセプトに基づき、具体的な展覧会デザインを創出した。

最終成果としての展示企画「Traces of Residence」は、2026年4月9日～5月12日まで福岡アジア美術館にて一般公開された。

期間 冬学期

担当教員 准教授 結城 円

講師 BEYN Ariane

使用言語 英語

履修者 21名(留学生18名)

講義内容

展覧会コンセプトの発表

現代実践フォーラム講演会

エクスカージョン

現代実践フォーラム講演会

展示デザイン制作セッション

中間発表

最終発表及び講評

講師：Florian Ebner（ポンピドゥー・センター キュレーター）

熊本・つなぎ美術館

講師：崔敬華（東京都現代美術館 キュレーター）

専門家：Frank Bode（展示会インストラー）



▲授業の様子

4.6 レクチャー・シリーズとイベント

2022年度から続くこの国際的なレクチャー・シリーズは、アーティストとの直接の出会いや対話を通して、現代アートの最先端を紹介するものである。様々な分野のアーティストが、九州大学の学生、教員、その他のコミュニティのメンバー、そしてアートに関心のある福岡の一般市民を対象に、自身の作品について紹介し、議論している。このシリーズでは、国際的に活躍する多様なアーティストの立場や、社会における現代アートの役割、またデザイン、人文科学、科学、工学といった他の研究分野とアートの潜在的な関連性について理解を深めることができる。このレクチャーは、未来共生デザイン部門、音響設計部門、メディアデザイン部門の教員が共同で、令和4年度大学活性化制度「日本デザインを創造し国際発信できる人材育成のための教育プログラム構築」および令和3年度大学活性化制度「メディアアートによる科学・技術の芸術表現への昇華を通じた価値の可視可プロジェクト」の一環として開催している。

レクチャー・シリーズ

2025年4月14日	アーティスト ダニエル・ヤングのトークイベント
2025年5月28日	准教授 大黒達也（東京大学次世代知能科学研究センター）のトークイベント
2025年10月6日	アーティスト ガビ・シリグ（ベルリン芸術大学教授）のトークイベント
2025年11月17日	キュレーター ジュ・シアオウエンのトークイベント
2025年12月15日	キュレーター フロリアン・エブナー（ポンピドゥー・センター）のトークイベント
2026年1月9日	キュレーター 崔敬華（東京都現代美術館）のトークイベント



5 海外パートナーの開拓

5.1 海外大学関係者の表敬訪問対応

概要

2025（令和 7）年度において、九州大学大学院芸術工学研究院へ合計 19 件、14 か国・地域からの訪問があり、訪問客数は全体で 146 名（教職員 45 名、学生 101 名）に達した。

海外訪問客の分析

■ 出身国・地域別

海外訪問客 19 件の出身国・地域の内訳は、台湾 5 件、オランダ 2 件、他（オーストラリア、フィンランド、ドイツ、中国、インド、イタリア、英国、インドネシア、韓国、スイス、ベルギー、エストニア）各 1 件であった。

■ 来訪目的

海外訪問客の来訪目的は、研究協議・交流 6 件、共同授業・セミナー 3 件、ワークショップ 3 件、授業参加 2 件、研究室訪問 2 件、他（意見交換、研修、イベント）各 1 件であった。

■ 受入教職員の所属部門

海外訪問客の受入教職員所属部門の内訳は、ストラテジックデザイン部門 6 件、未来共生デザイン部門 4 件、環境設計部門 3 件、人間生活デザイン部門 3 件、音響設計部門 2 件、メディアデザイン部門 1 件であった。

芸工インターナショナルオフィスの対応

これら 19 件の海外訪問客に対する、芸工インターナショナルオフィスの対応は、延べ 85 件であった。内訳は、広報用物品（芸工グッズ）手配 18 件、芸工紹介プレゼンテーション 16 件、会場予約・設営 15 件、写真撮影・記事掲載等 14 件、キャンパスツアーガイド 13 件、教員間ミーティング参加 6 件、研究院長表敬訪問対応 3 件であった。訪問件数に対する施設見学率は 68.4%（13/19 件）であった。

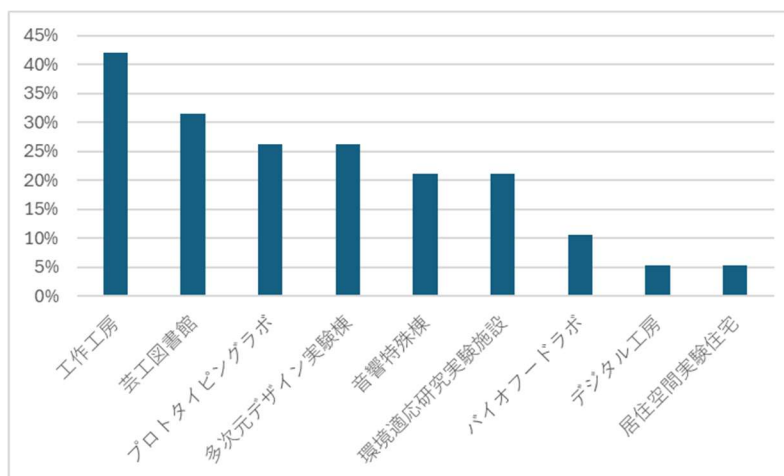


図. 海外訪問客件数（13 件）に対する九州大学大橋キャンパス施設見学率

表. 2025（令和7）年度海外訪問客情報

来訪年月日	大学・機関名	国・地域名
2025年4月4日	ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア
2025年4月17日	The Finnish Institute in Japan	フィンランド
2025年4月24日	ダルムシュタット応用科学大学	ドイツ
2025年5月7日	国立台湾師範大学、台湾国立成功大学	台湾
2025年5月12日	HAN 応用科学大学	オランダ
2025年5月20日	香港理工大学	中国
2025年5月21日	インド NGO Social Activities Integration	インド
2025年5月23日	国立台湾師範大学	台湾
2025年6月13日	PACO（第三セクター）	イタリア
2025年6月23日	グラスゴー大学	英国
2025年7月16日	HKU ユトレヒト芸術大学	オランダ
2025年7月28日	セプルノペンベル工科大学（ITS）、マタラム大学、NGO	インドネシア
2025年8月20日	江原大学校ほか	韓国
2025年10月9日	チューリッヒ応用科学大学	スイス
2025年10月9日	無所属（ベルギー在住アーティスト）	ベルギー
2025年10月15日	国立台湾師範大学	台湾
2025年10月22日	エストニア芸術アカデミー	エストニア
2025年12月8日	国立台東大学	台湾
2025年12月23日	国立台湾師範大学	台湾



5.2 部局間国際交流協定新規締結、更新のサポート

芸工インターナショナルオフィスでは、総務課研究支援係と連携し学術交流協定及び学生交流協定の手続きを支援した。

◆令和7年度の部局間交流協定数：48校

◆令和7年度締結状況

件数		大学名	国名
新規	1件	ブラウンシュヴァイク芸術アカデミー	ドイツ
更新	4件	カールスルーエ造形大学	ドイツ
		大連理工大学	中国
		パリ・ラ・ヴィレット建築大学	フランス
		国立台北科技大学	台湾

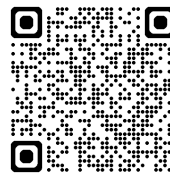
6 国際広報活動の充実

芸術工学部・大学院芸術工学府で実施する様々な活動の魅力を積極的に発信する。海外関係者や入学希望者と情報交換しながら良好な関係を築き、信頼されるコミュニティづくりを目指す。

6.1 国際広報

九州大学芸術工学部・芸術工学府の国際交流ポータルサイトGeiko Globalウェブサイトは、在学生向けに留学、国際交流イベント、協定校からのお知らせなどの多岐にわたる情報を掲載し、また芸工への留学を希望する人向けには入学・交換留学の手続き、福岡での生活情報などを掲載し、学生が活用しやすいウェブサイトを目指して随時更新している。

また、芸工インターナショナルオフィスのInstagramでは、日本語と英語で芸工の最新情報をタイムリーに発信するとともに、Facebook・LinkedInでも情報を展開し、多様なプラットフォームを通じて国内外に向けた積極的な情報発信を行っている。



▲Geiko Global ウェブサイト



▲Instagram

6.2 留学生リクルート

令和7年度は九州大学主催のオンライン留学フェア「Virtual Graduate Study Fair」(春季および秋季)に参加した。両イベントでは、オンラインブース出展、芸術工学府プログラム紹介プレゼンテーション、質疑応答セッションを実施した。さらに、在学生の協力を得て MEXT 奨学金大使館推薦の申請プロセスや経験談、成功事例、キャンパスライフの紹介を行った。

日付	イベント名	参加人数
2025年4月18日	第1回九州大学大学院オンライン留学フェア	全体161名 (分科会24名)
2025年11月7日	第2回九州大学大学院オンライン留学フェア	全体151名 (分科会13名)



▲第1回九州大学大学院オンライン留学フェア



▲第2回九州大学大学院オンライン留学フェア

6.3 芸工ウィンタースクール 2025

今年の Winter School では、ドイツ、インド、インドネシア、オランダ、台湾から 17 名の優秀な大学院（修士・博士）進学希望者が芸工に集い、1 週間にわたり芸工での講義や研究指導、文化交流を行った。特に今年度は、初めて参加費を徴収し、自費開催として実施した点が大きな特徴である。教員の皆様によるご指導とご助言のおかげで、プログラムは当初の想定を上回る成果が得られた。

参加者たちは、講義および研究指導の両方における先生方との直接的な交流を、本プログラムの最大の魅力として挙げていた。参加者全員が、「九州大学大学院芸術工学府への進学意欲が高まった」と回答しており、今後の進路選択において本学府への進学につながることを期待される。

目的

- ・ 留学生に大学院芸術工学府への理解を深める機会を提供
- ・ 潜在的な学生と大学院芸術工学府の指導教員とのマッチング
- ・ 参加者と教員・学生が相互にアイデアを共有する国際的な知識交流の促進

期間 2025 年 11 月 10 日～11 月 14 日

開催場所 九州大学 大橋キャンパス

使用言語 英語

参加者 17 名（修士課程志願者 12 名、博士後期課程志願者 5 名）

アドバイザー教員

教授	田上 健一
教授	SARANTOU Melanie
教授	田村 良一
教授	村木 里志
准教授	井上 朝雄
准教授	岩元 真明
准教授	斉藤 一哉
准教授	結城 円
准教授	井上 光平
准教授	城 一裕
講師	BEYN Ariane
助教	羽山 康之
助教	ZARINS Martins



▲芸工ウィンタースクールのポスター

講師

教授 SARANTOU Melanie
准教授 岩元 真明
准教授 斉藤 一哉
准教授 結城 円
准教授 HO HSIN-NI
准教授 城 一裕
助教 羽山 康之
助教 北條 知子

イベント内容

オープニングセッション

キャンパスツアー

現役大学院生とのネットワーキングセッション

講義

研究室訪問・ラボセッション

最終プレゼン



▲イベントの様子

7 国際化に関連する様々な活動

国際化推進を図る取り組みとして、「Geiko Global Hub」および「相談オフィスサポート」を展開した。これらは相互に補完的に機能し、留学生と日本人学生の有機的な交流を促進するとともに、学内外の多様な支援体制へとつなぐ橋渡し役を担うことを目的としている。

Geiko Global Hubは、異文化交流やコミュニティ形成、学生主体の活動を促進する場として位置づけ、国際的な学びと対話の機会を提供した。また、相談オフィスサポートは、個別相談を通じて学生の状況やニーズに応じた助言を行い、必要に応じて学内関係部署や外部機関へとつなぐ体制を整備した。

これらの取り組みにより、学生と大学による各種支援を結びつける中核的役割を果たし、芸工における包括的かつ持続的な国際化の推進に貢献した。

7.1 Geiko Global Hub

Geiko Global Hub (GGHub) は、芸術工学部・大学院芸術工学府においてダイナミックかつグローバルな視野を育むことを目的とし、ソーシャルラーニングとコミュニティ構築の場として設置されたものである。

目的

週1回の言語交流会の実施および月例イベントを通じて、留学生と日本人学生のつながりを強化することを目指している。これらの集まりによって、学生は創造的な交流を行い、異文化を探求し、互いに関係性を築くことができる。

運営体制

助教 YAO Yaya

助教 BLANCO CORTES LAURA MARIA

芸工グローバルハブの学生メンバー

実施期間 2025年10月29日～2026年2月5日

週次言語交流会 13回開催（参加者合計56名）

月例イベント 3回開催（参加者合計27名）



▲イベントの様子

7.2 相談オフィスサポート

本年度は、留学生（受入）および留学を希望する日本人学生（派遣）を対象とした個別相談体制を整備・強化した。本相談サービスは、留学生が芸工における学修および学生生活へ主体的に参加することを促進するとともに、派遣学生が留学準備や各種手続きを円滑に進められるよう体系的な支援を提供することを目的とするものである。これにより、学生のウェルビーイングの向上、十分な情報に基づく意思決定、そして円滑な学業遂行を支援した。

相談実績

合計 34 名の学生を対象として、62 回の相談を実施した。学生の内訳および相談内容の詳細は、以下のとおりである。

学生の内訳

課程	国内学生	留学生
学部	21	1
大学院	0	12
合計	21	13

相談内容

- 留学先の大学選び
- 留学奨学金
- 留学の時期
- 語学学習
- 留学申請の準備



▲相談オフィスサポート、GG-Hub イベントのポスター

7.3 その他

芸術工学部・大学院芸術工学府の国際化を更に発展させるため、事務部が担う文章の英訳や英文校正を支援し、留学生や研究者、また今後入学が見込まれる海外の学生に向けて、芸工に関する情報を正確かつ分かりやすい英語を提供できるよう努めた。

また、芸工の国際化にとどまらず、九州大学全体の国際化の推進に向けた取り組みに貢献するべく、国際部との緊密な連携のもと情報共有や協力体制に努めた。